



## 10月を振り返って



各自治体の教員採用選考の結果がほぼ出そろいました。合格を勝ち取られた皆さん、本当におめでとうございます。皆さんは4月からプロ教師としてのスタートを切ることになります。しかしその前に残りの半年間の学生生活の中で、一人前の教師・社会人としてデビューするために、準備しておきたい内容は色々あります。卒業までの期間を有効に活用して、教師として活躍するための準備を進めていきましょう。もし、どんな準備をしていいのかわからない方は、ぜひ一度教職課程センターまでご相談ください。皆さんの実態に合わせてカウンセリングを行いたいと思っています。（要予約）また残念ながら不合格だった方は、今後の進

路についても個別にご相談させていただきますので、ぜひ教職課程センターにお越しください。

また3年生で教職課程を受講中の皆さんは、すでに教職課程センターへの登録はお済でしょうか？

登録していただいた皆さんには、私が個別にヒアリングをいたします。来年夏の採用選考に向けて、しっかりと作戦を立てていきましょう。3年生はロードマップが完成した人から、一度個別面談を行います。皆さん個々の事情を考慮しながら、来年の採用選考までの準備計画を練っていきましょう。どんな試験もそうですが、準備開始が早いほうが余裕を持って取り組むことができます。一次選考の教職教養 と、専門教養は各自で過去問に取り組んでもらう必要があります。また近年、特に重視されている論文対策については個別に面接を行ったときに詳しく説明いたします。まずは論文の「型」をしっかりと身に付けるところから始めていきましょう。



## 11月の予定

3年生の皆さんには、提出していただいたロードマップの内容に基づいて、個別にヒアリングを始めています。早い人は既に論文作成に取り掛かっています。しかし説得力のある論文を仕上げる力は一朝一夕に身につくものではありません。今のうちにたくさん書いて、しっかり自己主張ができるようになることが必要です。教職課程センターでは「型」を重視した論文作成の指導を行っています。「型」をしっかりと覚えられれば、たとえどのようなテーマが出題されても対応できるようになります。最初は添削を受けて真っ赤になると思いますが、それだけ改善が見込めるという意味でもあります。今が頑張りどころですね。年内にできるだけたくさん書いてみましょう。

## 教員採用選考の結果（小金井キャンパス）

自治体	受験者数	1次合格者数	2次合格者数	合格者の割合 (1次/2次)
東京都	6	6	6	100%/100%
神奈川県	2	2	1	100%/ 50%
埼玉県	3	3	2	100%/ 67%
千葉県	4	4	4	100%/100%
横浜市	2	1	1	50%/ 50%
川崎市	1	1	0	100%/ 0%
総計	18	17	14	94%/ 78%



## 今年度の採用選考を振り返ると・・・



今年の採用選考の傾向を見ると、1次選考は不合格が1名であとは全員合格しています。採用する側の立場から考えると、近年受験生の総数が減少傾向にあるので、1次選考で機械的に点数だけで切って落としてしまうのではなく、できるだけ2次選考に進んでもらって、論文と面接で人物を見極めたい、という気持ちが働いたものと考えています。

実際に教職教養の得点が自己採点で30点ほどだった人も1次選考を通過しています。つまり1次選考は「足切り」的に活用し、実際の選考は2次重視・人物重視の傾向が強くなってきている、ということです。だからと言って1次選考の準備をしなくていいということではありません。もし「足切り」に引っかかってしまえば2次選考に進めないのですから、準備は例年通り必要です。ただ2次の論文・面接重視の傾向が一層強くなってきたということです。論文選考を突破するための文章力を身に着けるには、それなりの時間がかかります。一刻も早く論文の準備に取り掛かることをお勧めいたします。（まずは教職課程センターに登録してください）

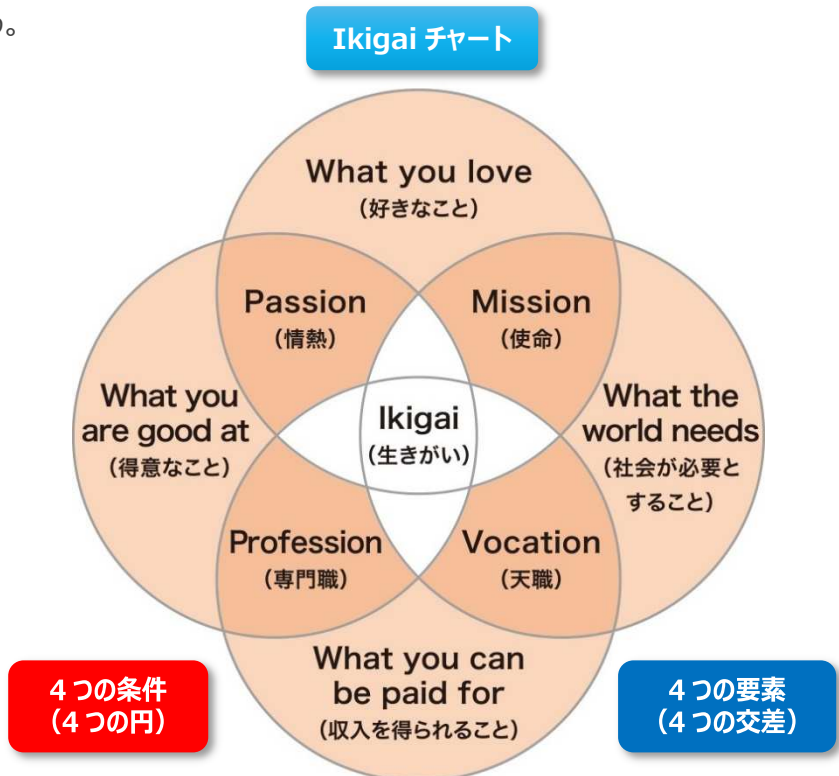
また、東京都や相模原市の様に、大学3年次で一次選考を受験することが可能になった自治体が今後も増えてくることが予想されています。いわゆる「青田買い」です。

採用する自治体の担当者にしてみれば、教職志望の意志が固い学生を早い段階で囲い込んでおきたい、という事なのです。この制度は教職を志望している学生にとっては追い風と言えるでしょう。一次選考のハードルが以前より下がっている昨今では、3年次に一次選考を突破しておけば、4年次には論文と面接の対策に集中できます。精神的な余裕も生まれます。



は、ほとんどが教職課程を選択し、教員免許取得を目指している人だと思います。特に3年生は、この時期進路選択で悩んでいる人も多いと思います。教職を目指すのか、それとも企業への就職を決断するのか、人生の方向性を決める大切な判断になります。私は教員OBなので、教職に興味を持ってくれた学生の皆さんには、ぜひ教師になって充実した人生を送ってほしいと願っていますが、最終決定を行うのは皆さん自身です。先生方や先輩など周囲の人たちの意見はもちろん参考にするとして、最後は自分で決断しなくてはなりません。その上で、もし本気で教職を目指す決心したのであれば、私はぜひそのためのお手伝いをさせていただきたいと思っています。ぜひ教職課程センターにお越しください。そしてあなたの決意をお聞かせください。一緒に作戦を立てていきましょう。

私は33年間公立の中学校や義務教育学校（小中一貫校）で生徒の指導に当たってきましたが、教師は人生を懸けるのに値する仕事だと思っています（我が教師人生に悔いなし！です）なぜそう思えるのか、冷静に振り返ってみると、実は教職は「生きがい」という概念に照らしたときに、その構成要素が、高い次元で満たされていることに気がつきます。生きがいは、要するに「朝起きる理由」のことです。人生を楽しむ理由と言ってもいいでしょう。右に示すチャートをご覧ください。



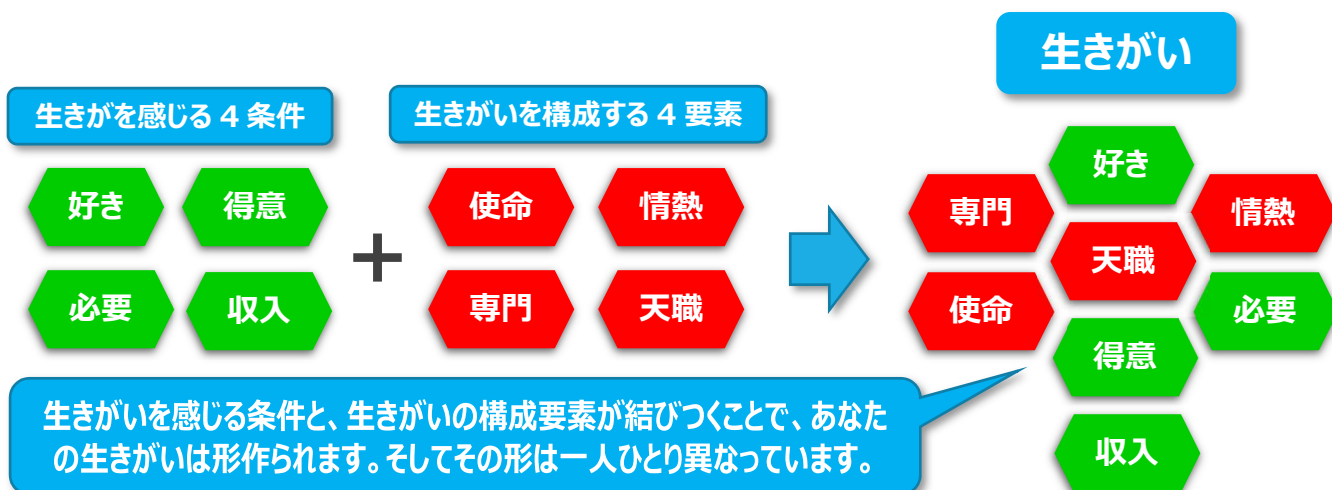
これはマーク・ウイン氏が、「**生きがいの4つの条件と4つの要素**」を示したベン図（チャート）です。

第一に、教師の使命は「生徒の人格形成」なので、これはいつの時代でも社会から必要とされる役割です。

**（使命・天職）** 次に、私は子どもたちが日々成長していく姿を見つめて、支援していくことが大好きだったので、教師の職務に専念することは全く苦になりませんでした。**（使命・情熱）** また、教師を続けたことで、指導技術も徐々に向上しました。**（情熱・専門職）** そして、教諭から主幹教諭へ昇任し、その後副校長・校長へと昇任したことで、職責も大きくなりましたが、その分仕事の裁量範囲や収入も増えていきました。

**（天職・専門職）** 結果として33年間の私の教師人生は、**生きがいのレベルを決める4つの要素【使命、情熱、天職、専門職】**が非常に高い次元でバランスした状態だったことに気が付きました。お陰さまで私は今「とても幸せな教師人生を送ることができた」と感じています。もちろん教師以外にも、皆さんが高い次元の「生きがい」を得られる職業はあると思います。今、正に職業選択真っ最中の皆さんは、ぜひこの【Ikigai チャート】を自分に当てはめて、**生きがいの4条件【好きなこと、得意なこと、社会が必要とすること、収入が得られること】**が高い次元で調和し、実現可能な職業選択ができることを願っています。





### シリーズ【私が出会った忘れられない生徒たち】

今月は、【私が出会った忘れられない生徒たち】について回想を載せたいと思います。2回目となる今回ご紹介するのは、「感謝の気持ちの表し方が半端なかった生徒」です。どんな生徒だったかと言うと……

私が初めて中3の担任を持った時のお話です。冬休みが終わり、いよいよ受験が一月後に迫ったある日、私はクラスの生徒に「受験も近づいてきたし、みんなで少し早起きして朝型になろう」という提案をしました。生徒はみな賛同してくれたので「それじゃ朝早く起きて来られる人は早く登校して朝勉強しよう。集合時刻は7時30分ね」と提案したのです。もちろん自由参加なので、そんなに大勢が参加するとは思っていませんでした。そのためその翌日からは私も朝7時には登校して窓を開けて空気を入れ替えたり、ストーブをつけて教室を温めたりしていました。1月も後半になると、そんな朝勉強に参加する生徒も次第に増えてきて、2月に入る頃には10名ほどが毎日参加するようになっていました。ある日のこと、いつものように私が7時少し前に教室に行くと、今まで参加していなかったC男がいたのです。「こんなに早く来てC男はいったい何をしているのだろう」と思った私が廊下からしばらく様子を見てみると、何とC男は、クラス全員の机と椅子を丁寧に水拭きし始めたのです。びっくりした私が教室に入るとC男は照れくさそうにして「先生、俺クラスのみんなに恩返しをしたいんです」と言ったのです。



話を聞いてみると「俺1・2年生の時のクラスでは誰も仲のいい友達ができなくて、寂しい思いをしていたんだけど、3年になってこのクラスになったら、何人もの仲間が話しかけてきてくれて、友達がたくさんできてとてもうれしかった。でももうすぐ卒業して、みんなばらばらになっちゃうから、その前にみんなに恩返しをしたいと思った。何ができるか自分なりに考えて、朝勉強の前にみんなの机と椅子をきれいにしておこうって決めたんです」と語ってくれました。そんなC男の気持ちがとてもうれしくて、私は「そうか、その気持ちはきっとクラスのみんなにも伝わると思うよ」と伝え、C男と一緒に卒業まで毎朝教室の清掃をすることにしました。その後C男のそんな行動に共感した仲間が何人か朝掃除に加わってくれました。C男のおかげで、卒業前のクラスに清々しい風が吹き抜けたように感じたことが、今でも忘れられません。

(このシリーズは不定期に掲載していこうと思います)